

# 平成20年度 南丹市事業評価表 (平成19年度 実施事業)

事業CD. 2119 事業名: 国際交流事業  
 細事業名: \_\_\_\_\_

政策体系上の位置付け (参考)  平成20年度～ 総合振興計画実施事業

政策: 第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く  
 基本施策: 5 未来を担う人づくりを進める  
 主な施策: (3) 地域とまちを担う人材育成のための支援

所管部署名  
 部局名: 企画管理部  
 課名: 企画推進課

科目CD. 1020106 作成日 平成20年10月21日

事業分類: B:ソフト事業  
 新規事業  時限事業 (平成 年度迄)

実施根拠 (法令、条例等)  
 \_\_\_\_\_

事業運営方法  直営  一部委託  全部委託  補助等  
 委託先  民間  三セク  NPO  学校  自治会・地縁団体  
 その他 ( )

## 事業概要

◆ 課題・目的 (どのような課題を解決するために実施した事業なのか)  
 国際社会への視野を広め積極的に異文化交流を進めようとする人を育成、支援し、国際理解の意識を高める。

◆ 活動内容 (具体的にどのような活動を行ったのか)  
 国際間の相互理解と友好親善に寄与するため、サイパン島青少年交流を実施するとともに、平成19年2月に実施したニュージーランドクルーザ連合市への市民派遣事業報告書の作成と配布を行った。また、日吉国際交流協会に活動補助金を交付した。併せて今後、全市を対象にした国際交流組織設立に向け市民中心の取組みを進めていく方針をまとめた。

◆ 対象 (この事業を実施するにあたり、ターゲットとした者(物)は何か)  
 国際交流に関心を持つ市民と、国際交流協会の加入者

◆ 結果 (この事業を実施したことにより、どのような効果または結果が得られたのか)  
 サイパン島青少年交流の開催を日吉協会に委託して実施するとともに、広く市内の中学生に参加を呼びかけたことから、交流会に参画した市民(市立中学生・一般)が増加した。

指 標		単 位	18実績	19実績	20予算	21計画
活 動 指 標	① 交流事業の開催			精 査 途 中		
	② 市協会設立の準備会議					
	③					
	④					
	⑤					
対 象 指 標	① 交流事業への参加者数			精 査 途 中		
	② 南丹市国際交流協会会員数					
	③					
成 果 指 標	① 南丹市国際交流協会			精 査 途 中		
	② 全域を対象とした国際交流					
	③					

市民や議会等からの要望・意見 (要望や意見の内容とその内容を確認した手段は何か)  
 ・市民から南丹市国際交流組織の立ち上げ要望が寄せられた。

近隣市町村や民間企業での同種事業の実施状況  
 ・京丹波町国際交流協会による交流事業、派遣と受入の事業展開

決算(予算)額	(千円)	4,075	398	136	413
財 源 内 訳	使用料・手数料等	(千円)	0	0	0
	国・府支出金	(千円)	0	0	0
	地方債	(千円)	0	0	0
	一般財源	(千円)	4,075	398	136
職員従事時間	(人)		0.16		
人件費 ※	(千円)		1,112		
トータルコスト ※	(千円)		1,510		

※人件費は、職員の給与・諸手当・共済などから、一定の基準に基づき算定したおおよその額です。  
 ※人件費およびトータルコストは、あくまでも参考値です。

**【公共性の評価】**

- (1) 行政の守備範囲 (民間や市以外の機関等が実施すべき事業ではなかったか)
- 法令等により定められた事業     市が実施すべき事業     行政内部の事業
- 民間等での実施は見込めない     民間等での実施も可能

説明: 民間での事業展開で、一層市民の主体性が発揮されると考えられる

- (2) 事業選定の妥当性 (事業の目的や意図が政策や施策の目指す方向にあっているか)
- 施策等の実現に向けた事業     施策等の方向とマッチしていない

説明: グローバルな視野で社会を見つめる人材育成に繋がる。

- (3) 対象の妥当性 (事業の本質から考えて的を得た対象を定めているか)
- 本質に沿った対象である     的を得た対象となっていない

説明: ただし、意識を持っていない市民に対しての啓発が課題

**【有効性の評価】**

- (4) 課題解決への有効度 (目的の達成や、課題解決のために有効的な事業か)
- かなり有効的     当初の予想どおり     予想しても有効的でなかった

説明: 派遣事業の報告書は充分活用し切れていない。

- (5) 施策実現に対する有効度 (総合計画の施策実現に対して有効的な事業か)
- かなり有効的     当初の予想どおり     想定よりも有効的でなかった

説明: 実現に向けては不十分

- (6) 成果向上の余地 (施策実現に向け更なる成果向上の余地はあるか)
- 大きい     小さい     無い

説明: 市民活動による新たな展開に期待。

- (7) 類似事業との統合・再編・連携の余地 (他の類似事業と統合や連携ができないか)
- 統合や連携等の検討可能     統合や連携はできない     類似事業がない

説明: 学校教育の振興施策

**新たに生じた課題・解決できなかった課題等**

友好提携の今後のあり方について具体策を講じることはできなかった。また、一部の市民から現在市協会実現への希望が寄せられた。

**改革案 (いつ、どのような改革を、どのような手段で行うのか)**

市協会設立への支援を講じ、早期実現を図る中で、市民のコンセンサスを得ながら方向性を見出す。

**【緊急性の評価】**

- (8) 課題解決への緊急度 (なぜ早期に実施しなければならなかったか)
- 法令等により期限がある     他事業よりも効果が大い     早期の取り組みが必要
- 他事業よりも優先度が高い     市民の生命・財産を守るため     緊急性は低い

説明: 交流事業で対象の中学生にとり同世代の外国人との直接交流は貴重

**【効率性の評価】**

- (9) コスト削減の余地 (事業内容、職員労力、仕事の進め方などから)
- 削減の余地あり     削減の余地なし

説明: 民間団体への委託で職員労力の省力化

- (10) 受益者負担の適正 (社会状況等から受益者の負担は適正か)
- 正当な受益者負担     見直す必要あり     負担を強いる事業ではない

説明: 協会に関しては適正とみられるが、交流事業の負担は要検討

**【協働性の評価】**

- (11) 市民との協働による事業実施 (協働による実施を検討したか)
- 協働事業には不向き     協働では実施していない     協働で行ったが主体は行政
- 協働で行ったが住民主体は一部     市民等が主体となって実施

説明: 事務局として多く携わっている現状から

- (12) 協働事業としての推進の余地 (今後、協働による推進できる余地はないか)
- 余地あり     余地なし

説明: さらに市民主体の取組みに移行すべき

**所 属 長 総 括 評 価**

南丹市国際交流協会 (仮称) の立ち上げ準備会を設置し新協会設立に向け協議中であり、既事業も含めて前述協会とタイアップしていく中で、重要な施策である。

**※事務局使用欄**

一次評価	廃止	特定の団体への補助というのはどうか。また、財政が厳しい状態の中で、税金を投入することに疑問を感じる。
二次評価	継続 (現状維持)	現在、南丹市の国際交流事業は旧日吉町より継続しての日吉国際交流協会を中心とした活動のみである。現在、本年度中に市協会設立に向けた取り組みを進めており、南丹市の新たな国際交流の方向性を見出すためにも引き続き新組織への支援が必要である。